

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6 月 25 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11506

研究課題名(和文) 看護シミュレーション教育の充実を目指したファシリテータ育成プログラム構築

研究課題名(英文) Facilitator training program for enhancement of nursing simulation education

研究代表者

内藤 知佐子 (Chisako, Naito)

京都大学・医学研究科・助教

研究者番号：10405053

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、シミュレーション教育における指導者のための育成プログラムを構築することである。フォーカスグループインタビューという手法を用いて、2016年12月～2017年1月に調査を実施した。対象は、日本の病院に勤める16名の看護師である。分析の結果、ファシリテータが抱えている困難として5つのカテゴリーを、そしてファシリテータが実践しているスキルとマインドを、7つの領域にて捉えることができた。

今後の課題として、現在の育成プログラムをブラッシュアップすること、ファシリテータの自信につなぐ自己評価表の作成に取り組んでいくことが挙げられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究において、シミュレーション教育における指導者がどのような困難を抱え、また工夫をしながら取り組んでいるかを明らかにした。また、困難を克服できるようプログラムに取り入れたことで、より実践的な指導者の育成につながっていることが期待できる。

研究者らは、本研究にて構築したプログラムをもとに、シミュレーション教育における指導者の育成に取り組み、過去4年間で講習会を149回開催し、1088名の受講修了者を輩出した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was the development of a new program for facilitators in simulation education.

We conducted interviews between December 2016 and January 2017 with 16 instructors at Japanese medical institutions. The interviewees also conducted focus group discussions. We found five categories of difficulties for the facilitators. The facilitators also possessed their own skill sets, outlooks and personal beliefs. The future tasks are to strengthen the current facilitator development program and to create a self-assessment table to gain the confidence of facilitators.

研究分野：シミュレーション教育

 キーワード：シミュレーション教育 指導者 ファシリテータ ファシリテーション ディブリーフィング 人材  
育成 看護教育 OJT

## 1. 研究開始当初の背景

日本では、新人看護師の技術力不足の指摘から、卒後臨床研修が努力義務(厚生労働省,2010)となり技術研修の拡充が図られている。また、卒前教育においても短縮された実習時間を補うべく技術演習に力を注ぎ、実践力のある看護師の育成に向けて取り組んでいる。このような背景のなか、注目されている教育手法の一つがシミュレーション教育である。

我々は2011~2013年度の科研費補助金基盤C「今、ホットなシミュレーション教育で繋ぐ大学から臨床への看護教育一貫システムの構築」の結果から、シミュレーション教育がシームレスな看護教育を繋ぐ教育方法の一つであることの示唆を得た。また研究者は、クリニカルシミュレーションセンターの専従教員として、2014年度から院内においてファシリテータの育成に取り組んできた。その内容は、講義とグループワークに加えて On the job トレーニング(以下、OJT)を通してファシリテータに求められるスキルとマインドを学ぶコースである。

受講者からは、OJTを通してスキルを活用するタイミングが明確になったとの評価が得られていた。しかし一方では、数多くの実践を積まないとの確に対応することは難しいとの声も多く、コース受講者はファシリテーションスキルやディブリーフィングスキルの習得になお困難を抱えていることがわかった。

より実践的かつ継続的なファシリテータ技能の向上のためには、コースを修了したのちもファシリテータが継続的にチップスを習得していく機会や課題解決に向けて互いに情報交換をできる場を構築していくことが求められている。また、ファシリテーションスキルやディブリーフィングスキルの習得を妨げている困難を明らかにし、質の高いファシリテータ育成プログラムの構築へと繋ぐことが課題である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、シミュレーション教育における質の高いファシリテータ育成プログラムの構築である。質の高いファシリテータを輩出することによって、本来のシミュレーション教育の効果が活性化され、安心して学習できる教育環境が整備されるほか、実践力のある看護職の育成を通して、看護の質向上にもつながることを期待する。

## 3. 研究の方法

2016年12月から翌年1月にかけて、20代~40代のファシリテータ16名、6施設を対象に3~5名ずつの4グループに分け、約1時間のフォーカスグループインタビューを実施した。フォーカスグループインタビューの特徴は、参加者が意見交換することで、グループダイナミクスが生じ、豊かで深い意見を引き出すことができる点にある。そこで、ファシリテータの発言が相互作用により促進されることを狙い、本法を用いた。インタビュー内容は、シミュレーションのファシリテータとして活動するにあたり難しいと感じることについて問い、許可を得てICレコーダーに録音した。録音データはグループ毎に逐語録に起こし、発言者がわかるよう対象者別にアルファベット記号を付した。次に、本研究の目的を念頭に困難を関連した内容を抽出し、グループ毎にサブカテゴリーを抽出し、各グループのサブカテゴリーを突合せ俯瞰し、質的帰納的に分析を行った。

倫理的配慮：本研究の実施に関しては、A大学の倫理委員会の承認を得て実施した。また、対象者には、口頭と文章にて説明を行い文章にて同意を得た。

## 4. 研究成果

対象者は16名、女性12名、男性4名であった(計6施設)。年代は、20代が1名、30代が9名、40代が6名だった。グループインタビューは、4つのグループに分けて行った(3名が1つ、4名が2つ、5名が1つ)。そして対象者の語りから、ファシリテータが抱えている困難として5つのカテゴリーを導き出した。

対象者は、一昔前のシミュレーションの知識で止まっているファシリテータとの間にギャップと弊害を感じ【ファシリテータのスキルとマインドの違いがもたらすジレンマ】を抱いていた。また、ファシリテータ同士やファシリテータと受講者との間における【普段の関係性が及ぼす影響】が大きく研修にも影響を与えることを体験していた。さらに、知識としては得ていても臨機応変に【ファシリテーションスキルを実践する難しさ】を語り、管理者や企画者側から研修に対し【求められる高い理想と研修が活かされない現場】を実感し疲弊していた。また、ファシリテータとしての自己研鑽のためには【ファシリテータの評価】が必要であることを捉えながらも、適切な評価を得る方法がないことを嘆いていた。

また、シミュレーション教育を担うファシリテータが実践しているスキルとマインドとして、3つの時間軸(シミュレーション前、シミュレーション中、シミュレーション後)と指導者の2軸(スキル、マインド)にて分類された6領域と、時間軸を超えて一貫してファシリテータがもつマインドの1領域を加えた、合計7領域における取り組みが得られた(図1)。

ファシリテータらは事前準備を大切にしており、<シミュレーション前>の段階では、学習者

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

のレディネスやニーズを捉えシナリオを作成する様子や、テストランを繰り返しシナリオや指導者間の調整を行う真摯な態度が抽出された。また<シミュレーション中>は、アドリブや仕掛けづくりを臨機応変に実施しながら、ファシリテータ自身が楽しんで取り組もうとする姿勢やチームビルディングを意識した学習者への関わりが得られた。さらに<シミュレーション後>においては、学習者に対しつねに敬意を払い、不快感を与えず、質問の切り口などを変えながら学習者が自ら気づかせる関わりを意識しながら関わる様子や、指導者間の齟齬を調整しながら振り返りを進める様子が見られた。<一貫してファシリテータがもつマインド>としては、“完璧さと謙虚さ”、“受講者の数だけインストラクションがある”と捉えるファシリテータの心構えなどが抽出された。

今後は、現在の育成プログラムをブラッシュアップし、この7領域の場面を想定しながら学べるコンテンツの準備に取り組み検証を重ねていく他、ファシリテータの自信につなぐ自己評価表の作成に取り組んでいく予定である。

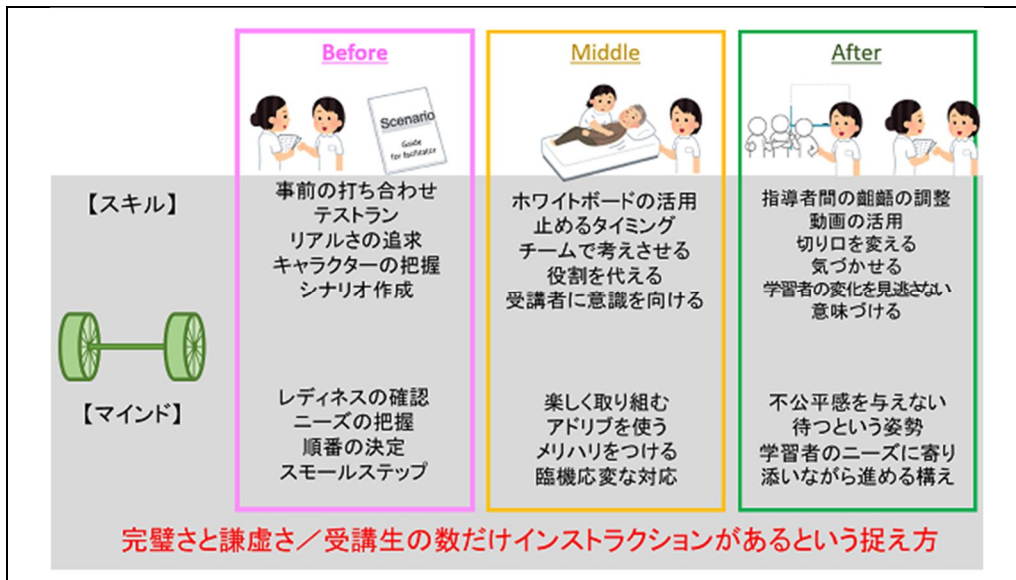


図1 ファシリテーターが実践しているスキルとマインド

5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計2件)

内藤知佐子, 谷口初美, 内海桃絵, 任和子: シミュレーション教育におけるファシリテーターが抱える困難, 日本看護科学学会 第38回学術集会, 2018.12.15-16.

Chisako Naito, Hatsumi Taniguchi, Momoe Utsumi, Kazuko Nin: Brushing up Simulation Teaching Skills, 8th Hong Kong International Nursing Forum, Hong Kong, 2018.12.17-18.

〔図書〕(計1件)

内藤知佐子, 伊藤和史: シミュレーション教育の効果を高める ファシリテーターSkills & Tips, 医学書院, 2017.

〔雑誌, シンポジウム他〕

高橋優三, 山畑佳篤, 内藤知佐子: なるほど the シミュレーション, 第4回日本医療シミュレーション学会, 2016年9月23日, 静岡県浜松市.

内藤知佐子: シミュレーション教育における指導者育成コース~心に火を灯す指導者の育成を目指して~, 第8回日本医療教授システム学会 教育企画5「シミュレーション医療教育のすべて~教材パッケージとノウハウ~」, 2016年3月3-4日, 東京.

内藤知佐子, 内海桃絵: ハワイ大学シミュレーション研修で学んだシミュレーション教育の可能性, 看護管理, 27巻, P750-753, 医学書院, 2017.

〔その他〕

ホームページ：京都大学医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター  
(シミュレーション教育における指導者育成コースほか)

<http://ur0.link/wPEp>



【ホームページ】

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：伊藤和史

ローマ字氏名：Ito Kazushi

所属研究機関名：京都大学

部局名：医学研究科

職名：特定教授

研究者番号(8桁)：10741928

研究分担者氏名：谷口初美

ローマ字氏名：Taniguchi Hatsumi

所属研究機関名：九州大学

部局名：医学研究院

職名：教授

研究者番号(8桁)：30295034

研究分担者氏名：任和子

ローマ字氏名：Nin Kazuko

所属研究機関名：京都大学

部局名：医学研究科

職名：教授

研究者番号(8桁)：40243084

研究分担者氏名：内海桃絵

ローマ字氏名：Utsumi Momoe

所属研究機関名：大阪大学

部局名：医学系研究科

職名：准教授

研究者番号(8桁)：40585973

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。